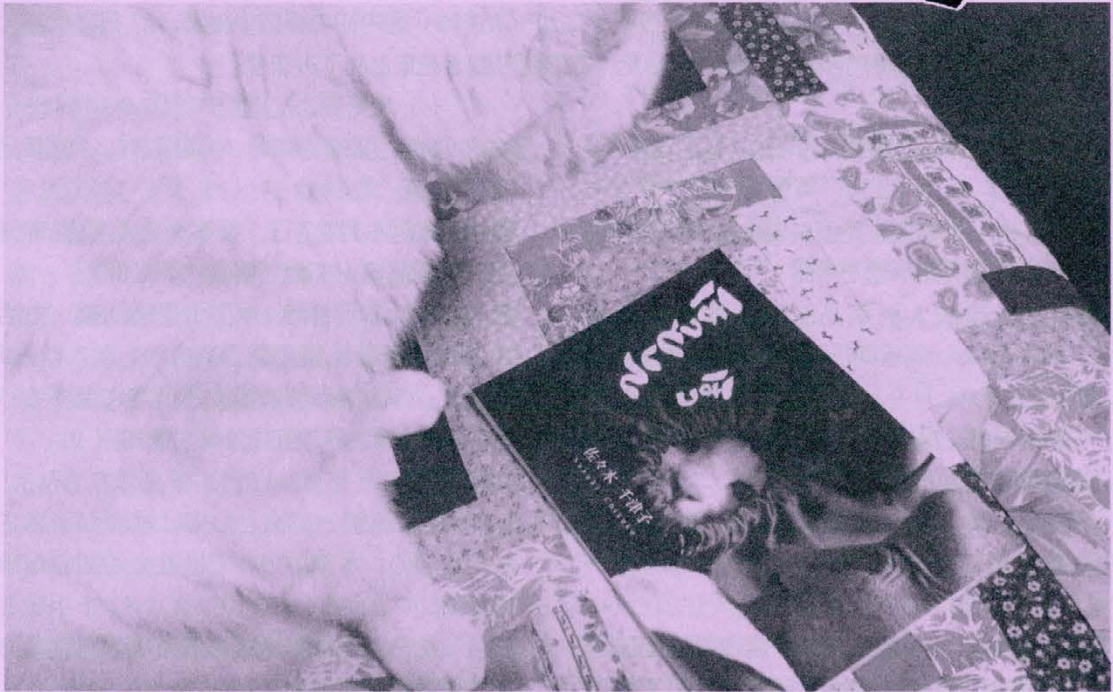


わたし 女の からだから

SOSHIREN ニュース

NO. 395

2023. 3. 18



Post card「さくらとメイ」企画編集室ゆじょんと より 故・佐々木千津子さん飼う猫メイ 撮影シバタミサエ
(エッセイ集『ほっとして ほっ』2013 by ゆじょんと “忘れない・強制不妊手術”)

今月の内容

- * 経口中絶薬の承認をめぐる - 「メフィーゴパック」の「パブリックコメント」募集
- * SOSHIREN (ソシレン) も経口中絶薬のパブコメを送りました
- * 優生保護法に関する最近の動き (熊本・静岡・仙台地裁で勝訴 + 3.28 院内集会)
- * 「子宮摘出手術」問題の歴史をふり返る 障害女性たちの活動史から 瀬山紀子
- * 本の紹介『生きられた障害』 * 会計報告 (2022年1月 - 12月)
- * 勝手にフェミニズム批評 梅は咲いた、桜は…
- * 米津知子のひとり語りときどき聞き語り その16 * 編集後記

私たちは、刑法堕胎罪の撤廃を求めているグループです。
子どもを産むか産まないかを、自分で選べることをめざしています。

SOSHIREN 女(わたし)のからだから

〒153-0061 目黒区中目黒1-4-18-401 mail: gogo.shoshiren@gmail.com FAX: 03-5211-0099

定額カンパ(ニュース講読料) 1年6000円、半年3000円 郵便振替 00170-1-74055

SOSHIREN 女のからだから ('82 優生保護法改悪阻止連絡会)

米津知子の ひとり語りときどき聞き語り

その16

今回も、「思想集団エス・イー・エックス」立上げ当時に、森節子さんと私が書いたピラを手がかりにする。「思想集団エス・イー・エックス」は1970年4月26日から始まる。このことについて、『資料 日本ウーマン・リブ史I』169頁の、グループを紹介する文章の中に次のようにある。「1970年4月26日、美共闘主催の『大阪万博反対集会』のステージをゲリラ的に乗っ取る形で、女4人はグループ結成宣言をした。」

『資料 日本ウーマン・リブ史I』は松香堂書店から1992年11月に発行されたが、10年近くかけて編纂され、多くのグループ紹介もその間にまとめられた。エス・イー・エックスは1985年に問い合わせを受けて、自分たちについて書き送り、「リブ史」編集スタッフの一人が紹介文をまとめ、それが掲載された。1985年の時点で、エス・イー・エックス自身は「ステーション70」で開かれた集會を「大阪万博反対集会」と認識していたのだった。しかしこれが誤りだったことが、2022年になって分かった。集會は「大阪万博反対集会」ではなく、「多摩美大・45年度入学式」。つまり学校を占拠した学生たちによる“自主入学式”だった。

「美共闘」は「美術家共闘会議」の略称なので、正しくは「美共闘」だ。1969年に多摩美術大学のバリケードの中で結成されたという。バリケードが築かれた1月に私は足を踏み入れて、前の年(68年)に参加した写真の同好会みたいなどころで見知った顔を追って、とある部屋に入っていったのだが、そこに居た人たちが「美共闘」になっていった。「結成

されたという」とか「なっていった」とか、この説明の仕方に現れているように、私はそのメンバーではなく、すぐ近くに居て学習会やデモなどの行動をともにしていた。「美共闘」にだけではなく、学生運動自体にもまだ主体的ではない、自分のものになっていなかったと思う。何を求めているのか分からない。しかし惹かれるものがあるところに行くと、語られていることの多くは理解できないのだが、いくつかの言葉が私の目の前の霧を吹き払ってくれる。それが面白くて通い続ける。そうしてだんだん、自分が社会的な存在であること、美術表現もデザインも社会的な役割を帯びているのだと気づいたことは、この連載で何度か書いたとおりだ。

自分自身のものになっていないということは、もともと頼りない記憶力をより不確かにする。旅行に行っても美しい景色を見たのを覚えているが、その土地の名や最寄り駅ははっきりしないというのに似ている。残念なあるいは申し訳ないことに、70年4月に開催した集會の意味や名称が、自分が行ったこととしてはっきりと記憶に刻まれていない。1985年に『資料 日本ウーマン・リブ史I』に送ったグループ紹介で、「エス・イー・エックス」が自分のグループの旗揚げの場である集會名を、間違えて書いたのはそういうところから来ていると思う。

『資料 日本ウーマン・リブ史』は、2022年6月に現代書館から出版された『凜として灯る』の引用資料として使われた。「リブ史I」169頁は「思想集団エス・イー・エック

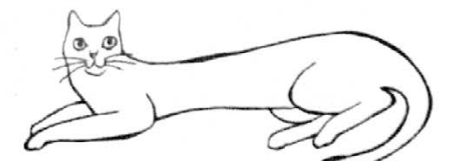
ス」の対外的な旗揚げの舞台が【美共闘が主催した「大阪万博反対集会」だった。】という記述の根拠になった。『凜として灯る』の63頁、その箇所を読んで、私自身はまったく違和感を持たなかった。しかしこの本を読んでくれた堀浩哉さんが、米津に連絡をくれた。美共闘として「ステーション70」での集會に中心的に関わったひとりだ。集會が「多摩美大・45年度入学式」というものであったことを教えてくれて、この集會名が記された当時のピラも送ってくださった。この経緯を含めた説明が、『凜として灯る』のサイトに掲載されている。そこで著者の荒井裕樹さんが言葉を尽くされ、堀さんもこれを了解された。私を含むエス・イー・エックスの記憶違いが分かり、このように提示されたことはよかったと思う。が、エス・イー・エックスと美共闘について正しくない記載が『資料 日本ウーマン・リブ史I』に残っていること、堀さんと荒井さんをはじめ関係する方たちに、申し訳ない気持ちは持ち続けている。『リブ史』は、70年代の女の運動を知ろうとする人の多くが手にする資料だ。エス・イー・エックスについて私が記すなら、このことにも触れるべきと思って書くことにした。

70年4月26日の集會名称が違うと分かったとき、私は『リブ史I』に収録された70年～72年のエス・イー・エックスのピラ15点を読み直した。また、『リブ新宿センター資料集成 ピラ篇』(インパクト出版会)やその他の出版物、70年代を振り返るエス・イー・エックスのメンバーの文章や語りも見返した。エス・イー・エックスは「ステーション70」で開かれた集會を、いつから「大阪万博反対集会」と認識していたのか? 振り返ろうと思ったのだが、「大阪万博反対集会」も、自主入学式も、どちらの記載も見当たらなかった。70年5月発行のピラ「4. 26 思想集団エス・イー・エックス結成集會総括」は、「ステーション

70」で開かれた集會とその背景に向けて、自分たちの違和感や憤りを強い言葉で現しているが“いつ”はあるが、“どこで・誰が・何を”が抜けている。自分(たち)の内面を掘りおこそうと一生懸命だけれど、読む人がそこから何を受け取るかを考えていない。出来事を記録することに熱心でない。

こういうピラは、当時めずらしくない。正確さをあまり気にかけていない。集會の名称や、主催する団体名の表記が、何通りもあったりする。発行の日付けとして何月何日は書いてあっても、何年なのかが記されていないピラはとても多い。まるでたった今、ここに居る自分(たち)にだけ目が向いているようだ。未熟さでもあり、だから力強く伝わるものもある。間違った記録をしてしまった私がいけないかも知れないが、40～50年前の若い運動が残した記録は、そういう面があることを心にとめて読んでもらえたら有り難い。女の運動に限らず、70年代前後の資料がこれから読み解かれていくと、つじつまの合わないこと、間違った記載が発見されるかも知れない。自分が残した物にもそれはまだまだ見つかるかも知れない。怖いことだが、修正ができる機会と考えればいいのかも知れない。生きていて、記憶を遡ることができる間は、知らせて貰えたら一生懸命取り組もうと思う。

また、これから何かの運動を始めようとする人には、話す、書く言葉に正確を期そうと思わずにいいでと言いたい。詳しく知ってから発言しようとか、そういうことも気にしすぎなくていいと思う。語ったり書いたりすることは、自分の中にある違和感とか憤りとかをかたちにするものだと思うから、それが先でいいのではないだろうか。



画 MIKU